
平成 29 年度第 3 回彦根市環境パートナー委員会 会議概要

開催日時：平成 30 年 2 月 14 日(水) 10 時 00 分～12 時 00 分

開催場所：アル・プラザ彦根 6 階 大学サテライト・プラザ彦根 A 教室

出席者：野間委員長、柴田副委員長、田中委員、石崎委員、下田委員、上藤委員、
大森委員、西川委員

(事務局：辻生活環境課長、吉田課長補佐、草川主査)

【会議の内容】

1. 開会

2. 議事

(1) 評価報告書(案)の修正およびまとめ

1) 経過～総括について

「新たな課題」について

- ▶ 出前講座の講師を多忙な市職員 1～2 名で行っている旨の記述に関して、文章全体を読むと、市としては体制を見直すことは考えておらず、市民だけにやってもらいたいというようにとれるが、そうではなく、市の環境分野に対する体制を、より現代の課題に対応できるものに変革していくとともに、市民の取組も積極的に応援していくというような記述とするべきである。
- ▶ 現在の環境行政の現状を鑑み、生活環境課職員の増員が必要だということを記載すればどうか。現在の生活環境課の体制が 40 年ほど前の公害時代に作られた体制のままで変わっていない。他市では生活環境課の業務を 3 つくらいの課に分けているところもある。
- ▶ 官と民が一緒になって意見を言い合っているところもある。民間も記載すればどうか。

2) 基本方向 1 について

- ▶ 特になし

3) 基本方向 2 について

環境こだわり農家実施面積の推移について

- ▶ 取組内容について、県と市の取組や交付金制度の仕組みを記載するなどもっとわかりやすい説明にしてほしい。
- ▶ 化学物質・泥水の削減や琵琶湖河川の水質保全につながっているという根拠データはあるのか。ないのであれば表現を変えるべきである。環境こだわり農家実施面積の拡大の効果は、トンボやホタルなどをはじめとする田んぼの生き物を豊かにすることではないかと思う。根拠のない水質保全を内容とするよりも、生き物

の増える場所を目指しているといった内容を記載した方がより良い。

- ▶ 以前は補助を増額すれば環境こだわり農家実施面積が増えるという考えであったかと思われるが、最近は補助が増えても面積は減っている。こういう状況で、担当課としてはどのように増やそうと考えているのか、施策があれば聞きたい。
- ▶ 環境こだわり農業に取り組む人たちを応援するような趣旨で書けるとよい。

4) 基本方向3について

外来魚の駆除量について

- ▶ 外来魚回収ボックスの数を増やせば回収量は増えるだろうが、それが効率的なのかどうか、設置場所はどこがよいのかなど、これまでやってきたことをこれからも続けていくのがよいかどうかについて一度立ち止まって検証する必要がある。
- ▶ 滋賀県全体での回収量についても表に入れると、県全体に対して本市の取組状況がどうであるかわかりやすくなると思う。

5) その他

環境パートナー委員会の評価欄の記載について

- ▶ 全般的に丁寧に書いてあるが、字数が多くてわかりにくい。箇条書きで要点だけを記した方がわかりやすいと思う。
- ▶ 提案など強調したいことを太字にする、字を大きくする、斜体にする、下線を入れるなど、目につきやすいようにすればどうか。キーワードや数字など簡潔な見出しをつけるのも方法である。
- ▶ 文章展開のパターンが統一されていれば読みやすくなる(最初に現状評価など)。
- ▶ 今回の評価報告書の大幅な変更は時間的にも難しいので、今年度はこのままでよいが、読みにくいのは確かなので、字間や行間を空ける、字数を減らすなど、読みやすくなる工夫をお願いしたい。

(2) 平成30年度委員会の進め方および日程について

- ▶ 今回いただいたご意見等を踏まえて評価報告書を完成させ、市民に公表させていただく。また、本報告書をもって彦根市長に環境パートナー委員会から提言を行い、環境審議会において計画の見直しなどについて調査・審議していただく。
- ▶ 本評価を是非報道へ発表していただきたい。また、市役所内でも情報共有していただきたい。
- ▶ 来年度の環境パートナー委員会は概ね8月、10月、12月の全3回実施を予定しており、基本方向4から6の平成28年度から平成29年度分実績について進捗状況評価を行っていただく。
- ▶ 公募委員1名が諸事情により辞任となるため、次年度は委員1名欠員のまま9名で進めていく。

3. 閉会